

森の中、池のほとりに現代美術

六甲ミーツ・アート

きょうつ開幕

六甲山を舞台にした現代美術の祭典「六甲ミーツ・アート」が14日、神戸市灘区の六甲山カンツリーハウスなど屋内外10会場で開幕する。13日には内覧会があり、森の中や池のほとりなどに展示された斬新な作品を、関係者が一足早く鑑賞した。

(津谷治英)



白い樹脂で造られた「パン」キャンディー
六甲山カンツリーハウス (撮影・風斗雅博)

NEXTに
動画

屋内外10会場
39組44点展示



六甲山の観光振興などを目的に、阪神電鉄などが2010年に始めた。7回目
の今年、全国から39組のアーティストが44点を出品した。
昨年、公募部門の大賞に選ばれた森太三さんは、六甲ケーブル・六甲山上駅隣の展望施設「天覧台」に、紙粘土を素材にした真っ白なテーブルを出品した。激しい起伏のある純白の大きな板が雲海を連想させる作品は、山の玄関口を「美術館」に変えた。

11月23日まで(会期中無休) 鑑賞券は中学生以上1850円、4歳以下小学生930円。インフォメーション ☎078・891・048